

広域システム科学系・ 人文地理学分野の紹介



2020年度版（大学院入試説明会用）
詳細な情報は以下のホームページをご参照ください
<http://www.humgeo.c.u-tokyo.ac.jp/>

内容

- 教室スタッフについて
- 授業について
- 大学院ゼミについて
- 修士論文・博士論文について
- 設備について
- その他

人文地理学教室の現スタッフ

- **松原 宏** 教授（経済地理学，ドイツ地域研究）

※松原教授は定年まで2年未満のため**大学院生を受け入れることができません。**

- **永田淳嗣** 教授（文化・政治生態学，農業・農村地理学，東南アジア地域研究）
- **梶田 真** 准教授（農村地理学，地方行財政の地理学，地域統計論）
- **田中雅大** 助教（社会地理学，地理情報科学）

※助教は**大学院生を受け入れることができません。**

- この他，広域システム科学系で人文地理分野を専攻する教員として地域未来社会連携研究機構に**鎌倉夏来**准教授（経済地理学，工業地理学）が在籍しています。
- **鎌倉准教授も大学院生を受け入れることができますが，受け入れ枠が異なり，若干名の募集となります。**

大学院の概要（2020年度）

- ポスドク・研究員 **2名**
 - 博士課程（休学者含む） **6名**
（うちD1 1名， D2 0名， D3以上 5名）
 - 修士課程 **11名**
（うちM1 4名， M2 7名）
- 合計 **19名**

外部から進学した大学院生の出身大学（留学生除く）

- 早稲田大学，東北大学，名古屋大学，上智大学など
- **地理学教室以外の進学者や社会人院生もいます。必要に応じて学部の授業を取ることも出来ます（修士課程の場合は，8単位まで修了単位に算入することができます）**

課程修了に必要な単位

- 修士課程**30単位**（うち専攻科目から16単位以上.学部の単位は8単位まで）
※うち**12単位**は論文指導及び大学院ゼミ（特殊演習及び特殊研究）で取得できます
- 博士課程**20単位**
※うち**18単位**は論文指導及び大学院ゼミ（特別演習及び特別研究）で取得できます

大学院の授業

- 本教室の**3人の教員が1年間の間にそれぞれ1コマずつ授業を開講します**（Sセメスター2名・Aセメスター1名）
→全員の授業を取ると6単位になり,修士課程の場合,あと12単位を取れば単位が揃うこととなります。
- 授業の番号が変わるため,2年続けて同じ先生の授業を取ることもできます

集中講義

- 各年度1回（1単位）の集中講義が行われます
- 集中講義の先生は原則として大学院生の希望・専門を反映した形で選ばれています



近年の集中講義の先生

- 2020年度荒又美陽先生（明治大学）
（文化地理学， フランス研究）
- 2019年度大城直樹先生（明治大学）
（文化地理学， 地理思想）
- 2018年度内田忠賢先生（奈良女子大学）
（文化地理学， 民俗学）
- 2017年度堤 純先生（筑波大学）
（都市地理学， GIS研究）

他研究科・学部 の 授業

- 他研究科で取得した単位も修了単位として認定されます
- 8単位まで学部の授業を取ることもできます（ただし内部出身者で既に学部時代に履修した授業の再履修はできません）。
- 地理学教室出身でない院生は、必要に応じて学部の**野外実習（地理空間フィールドワーク）**や**GIS・地域分析の実習（地理情報分析基礎）**を受講しています。

在学年限の上限

- 修士課程**3年**（休学2年を使うと最長**5年**）
- 博士課程**5年**（休学3年を使うと最長**8年**）



大学院ゼミについて (1)

- 毎週火曜日15時30分から行っています.
- 1人あたり発表時間は25分，質疑応答が20分（合計45分）です.
- 博士課程の学生は各学期に1回の発表が課せられます
- 修士課程の学生はM1時に3回（主として卒論発表，文献レビュー，修論構想），M2時に2回（主として修論の調査・分析計画，調査結果の概要）

大学院ゼミについて (2)

- 書記が設けられ，質疑応答の内容は後日，発表者に配付されます

※この他，各研究室で研究室ゼミが行われています。ゼミ毎にスタイルが異なるので，内容については指導を希望する先生に個別に聞いてみてください

近年の修士論文のテーマ

- 地方町の観光まちづくりが抱える閉塞感
— 東城まちなみ保存振興会を事例として —
- 地方自治体における地域医療政策の政策
過程分析：長野県の医学生修学資金制度
を事例として
- 縫製産業における外国人技能実習生利用
の脱ジェンダー構造：岡山県倉敷市児島
地区と手がかりとして
- 日本のワイン産業における技術伝播：山
梨県甲州市勝沼地域を事例に

近年の博士論文のテーマ

- 転換期中国都市における郊外の形成と住民
のライフスタイル— 北京市の事例 — (課程
博士)
- インドネシア外島におけるフロンティア空
間への移住と開拓 (課程博士)
- 「平成の大合併」と地理的リスケーリング
(課程博士)
- グローバルシティにおける韓人の国際移住
およびエスニック空間に関する地理学的研
究 (課程博士)

設備について (1)

- **2号館2階**が人文地理学教室のフロアとなっています
- **機器室**：コンピュータ・ルームでありコピー機・裁断機等が完備されています。ArcGISは全てのPCにインストールされています
- **地図室**：地形図の体系的な収集を行っており、国内外の様々な地図があります。人文地理関係の少人数講義は主として地図室で行われます

設備について (2)

- **図書室**：地理関係の学術雑誌・和書があります。東大の豊富な電子ジャーナルも利用できます（洋書・洋雑誌バックナンバーは駒場図書館地下2階に別置されています）
- **統計室**：国勢調査など主要な統計資料が配置されています。大学紀要もこの部屋にあります（事実上の学生室でもあります）
- **院生室**：4室（1室6名前後）あり、院生毎に机と本棚が配分されます

大学院生の主な就職先（1）

- **修士**：基本的に学部生と同様の就職状況であり，しかるべき就職活動や試験勉強を行う必要があります
- **博士**：大学教員など研究機関が中心です．近年は，博士号取得後，学振特別研究員（PD）や年限のあるポストを数年経験したのちにテニユア（年限のない）のポストを得るケースが増えています

大学院生の主な就職先（2）

- 本学では**専修免許を取得することができません**ので注意してください
- 中学・高校教員として就職する場合には，主に修士号・博士号取得者を募集対象とする私立の進学校に就職するケースが多いです

最近の大学院生の主な就職先

- **一般就職**：マツダ，JICA，国土交通省，日本通運，静岡県庁，日本経済新聞社，物質・材料研究機構，本田技研工業，富士通など（修士課程修了者）
- **大学・研究機関**：東京大学大学院総合文化研究科，早稲田大学教育学部，静岡大学情報学部，国立社会保障人口問題研究所など（博士課程修了者）

本年度院試に関する注意事項

- 新型コロナウイルス感染拡大の動向によっては**院試の実施形態が変更される可能性があります**
- 修士課程・博士課程への出願に関する正式な情報は**大学院総合文化研究科の入試案内ページ**（<https://www.c.u-tokyo.ac.jp/graduate/admission/master-doctor/index.html>）に掲載されますので適宜，確認するようにしてください

永田教授・梶田准教授への問い合わせ先

①コンタクトを取りたい教員名, ②氏名・③所属・④返信先のメールアドレスを明記して

webinfo@humgeo.c.u-tokyo.ac.jp

にメールしてください。当該教員に転送いたします。

鎌倉准教授への問い合わせ先

①氏名・②所属・③返信先のメールアドレスを明記して

info.frs001@gmail.com

にメールしてください。